

エコフレンドリーな研究活動のガイドライン

2023年7月22日制定

深刻化する気候危機の問題が社会にもたらす影響を軽減するためには、早急な対策が求められる。制度レベルの大きな変化も緊要だが、個人の意識の変化も不可欠である。

日本社会学会は気候危機対策の緊急性を認識し、生態系資源の慎重かつ持続可能な使用のために、会員に以下の行動指針を推奨する。

個々の研究活動の中で意識していただきたいこと

- 国内および国際学会・会議、その他の公式な議論の開催や参加をオンラインで行える可能性について検討し、不要な出張を避けること。
- 国内出張は可能な限り飛行機の利用を控えて電車で済ませること。
- 出版物を発行・発送をする際には、プラスチックフリーのパッケージを使用すること。

日本社会学会は下記の取り組みを行う。

- 不要な出張を避けるため、理事会や委員会をできる限りオンラインで開催すること。
- 会員への連絡（ニュースなど）をなるべくペーパーレスに変更し、郵送の場合プラスチックフリーで行うこと。